

令和6年度

南三陸町教育委員会の活動状況に関する

点検及び評価報告書

令和6年8月28日

南三陸町教育委員会

令和6年度南三陸町教育委員会の活動状況に関する点検及び評価の実施について

1 点検及び評価の概要及び目的

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第26条の規定により、教育委員会では、毎年、教育行政事務の管理及び執行状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに公表することとされていることから、これを行うもの。

2 根拠法令

○地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第一項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

3 令和6年度点検評価実施内容について

(1) 点検・評価の対象事業について

今年度は、本町の教育振興基本計画をベースとして、令和5年度の教育基本方針で定めた具体の施策のうち、学校教育5事業、社会教育4事業を対象に評価を実施するものである。

(2) 点検・評価の方法について

選定した事業について、事業評価シートを作成し、令和5年度における取組実績及び成果の自己点検・評価を行い、この結果を基に学識経験者からの意見聴取を実施し、報告書のとりまとめを行う。

4 学識経験者からの意見聴取

(1) 学識経験者として依頼した者

及川 道子氏（元教諭）

西條 榮福氏（元町議会議員）

(2) 学識経験者からの意見聴取日時等

日時：令和6年8月21日（水）午前9時～午前11時30分

会場：南三陸町役場 教育長室

令和6年度南三陸町教育委員会の活動状況に関する点検及び評価
対象事業一覧

番号	事業名	担当係
1	学力向上推進事業	学務係
2	積極的な生徒指導の推進	学務係
3	コミュニティ・スクール推進事業	学務係
4	特別支援教育推進事業	学務係
5	教育環境の整備促進	学務係
6	生涯学習推進事業	生涯学習係
7	協働教育推進事業	生涯学習係
8	文化芸術活動推進事業	生涯学習係
9	スポーツ活動の機会の充実	生涯学習係

事業番号	1	事業名	学力向上推進事業
教育振興基本計画	基本方針	確かな学力と自立する力の育成	
	施策	確かな学力の定着	
目的及び事業内容	<p>全国学力・学習状況調査、CRT検査等の分析を行い、町内の小・中学生の実態を把握し、基礎・基本の確実な定着を目指していく。また、他地域の視察や研修の充実を通して町内の教職員の指導力向上を図る。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 児童生徒の実態の把握と分析 2 児童生徒の学力向上に係る取組 3 教職員の指導力向上に係る取組 		
取組実績	<ol style="list-style-type: none"> 1 児童生徒の実態の把握と分析 <ul style="list-style-type: none"> ・CRT検査…小学校は令和6年2月、中学校は令和5年4月の年間1回実施した。 ・全国学力・学習状況調査の分析…調査実施後の自校採点や結果公表後の分析を通して児童生徒の実態を把握し、学力向上対策委員会で対策の検討を行った。 2 児童生徒の学力向上に係る取組 <ul style="list-style-type: none"> ・「南三陸町小中学校9年間を見通した学習スタンダード」、「家庭学習の手引き」の活用…学力向上対策委員会で作成した「南三陸町小中学校9年間を見通した学習スタンダード」、「家庭学習の手引き」を町内小・中学校に配布した。 ・「南三陸スタイル」による授業づくり…1時間完結型、構造的な板書、授業の流れカードの提示など南三陸町共通の授業のスタイルについて各校で情報共有を図った。 3 教職員の指導力向上に係る取組 <ul style="list-style-type: none"> ・成果事例の共有…学力向上対策委員会で各校における成果事例を共有した。 ・大河原町教育現場視察研修…小中学校教員、教育委員会19名が参加した。 ・学力向上研修会…町内全教員を対象として、宮城県気仙沼教育事務所の千葉清人学力向上マネジメントアドバイザーを講師として、「個別最適な学びと協働的な学びの一体化を目指して」を演題に研修会を実施した。 ・市町村教育委員会との連携による学校サポート事業…志津川中学校区小中学校において、研究教科を「算数・数学」として実施した。 		
成果	<ol style="list-style-type: none"> 1 児童生徒の実態の把握と分析 <ul style="list-style-type: none"> ・CRT検査や全国学力・学習状況調査の結果を分析することで、観点別の理解度や基礎・基本の確実な定着に向けた児童生徒の実態、児童生徒の生活習慣等を把握し、その後の指導に役立てることができている。 2 児童生徒の学力向上に係る取組 <ul style="list-style-type: none"> ・「南三陸町小中学校9年間を見通した学習スタンダード」の配布や「南三陸スタイル」による授業づくりを通して、町内小・中学校で共通の取組を実践することができた。長期的な視点での指導や小中の円滑な接続に効果的であった。また、小・中学校において統一して取り組むことができる「家庭学習の手引き」を基に指導を継続したことで、家庭学習の習慣も身に付いている。 3 教職員の指導力向上に係る取組 <ul style="list-style-type: none"> ・大河原町教育現場視察研修や学力向上研修会を通して、主体的で対話的な深い学び、協働的な学習、単元観、指導と評価の一体化などについて理解を深めることができた。また、各校の実践発表では、学力向上に向け取組みを共有することができた。 		
成果に係る評価	<ul style="list-style-type: none"> ・CRT検査においては、多くの学年、教科で全国・県平均との乖離は小さくなっており、各教科で改善が見られた。 ・全国学力・学習状況調査の結果では、本町の平均正答率は、小学校では全ての教科で全国平均を上回る結果となった。中学校では、全ての教科で全国平均を下回ったものの、国語においては全国との乖離は小さくなってきている。 ・今後も、基礎・基本の定着を図り、全国学力・学習状況調査等で得られた客観的なデータを分析し、学力向上に向けた取組を進めていく必要がある。また、「南三陸町小中学校9年間を見通した学習スタンダード」「家庭学習の手引き」の定着と、「南三陸スタイル」を基にしながら、今年度策定予定する「南三陸授業創造3項目～主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善～」を活用した授業づくりに力を入れ、学力向上に努めていく。 		

事業番号	2	事業名	積極的な生徒指導の推進
教育振興基本計画	基本方針	豊かな人間性や社会性、健やかな心と体の育成	
	施策	積極的な生徒指導の推進	
目的及び事業内容	<p>いじめは、児童生徒の教育を受ける権利を著しく侵害し、その心身の健全な成長及び人格の形成に重大な影響を与え、さらに、その生命又は身体に重大な危険を生じさせる恐れがある。どの子どもにも、どの学校にも起こりうることであることを踏まえ、いじめの未然防止、いじめの早期発見、いじめへの適切な対応に向けて、組織的に対応していく。</p> <p>不登校については、本県は全国の発生率よりも高く、喫緊の課題となっている。本町においても例外ではなく、いじめと同様に、未然防止、適切な初期対応、継続的な支援を行い、子どもたちの社会的自立を目指していく。</p> <p>積極的な生徒指導の推進</p>		
取組実績	<p>○南三陸町教育支援センター「はまゆり」の取組</p> <p>不登校児童生徒や東日本大震災の影響を始めた様々な要因により心のケアを必要とする児童生徒、その保護者の多様なニーズに対応することを目指し、令和3年度から適応指導教室と子どもの心のケアハウスを統合し、教育支援センター「はまゆり」を開設した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象者…町内小中学校に在籍し、集団生活への適応困難等の理由により学校を長期にわたり欠席している、またはその傾向のある児童生徒とその保護者 ・開設日時…毎週月曜日～金曜日の5日間（祝日及び年末年始除く。）、午前9時～午後4時 ・主な活動内容…教科学習、スポーツ活動、体験活動、創作活動、相談等 ・関係機関との連携…不登校担当者会議、スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーとの情報交換、各校との情報交換、学級担任のつどい、親のつどい <p>○各学校の取り組み</p> <p>児童生徒との面談・定期的なアンケートの実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・心のケア、いじめ、不登校等の問題行動の早期発見を図り、全教職員の共通理解のもと、組織的に対応した。 <p>○スクールソーシャルワーカーの活用</p> <p>複数拠点校方式と派遣方式を併用し、志津川中学校、歌津中学校を拠点校として定期的に（隔週）勤務。中学校区毎に、ニーズに応じて学校を訪問し、各校の実情に応じた活動を行った。</p> <p>○スクールカウンセラーの活用</p> <p>児童生徒の心のケアを行うため、各校に臨床心理士等の資格を有するスクールカウンセラーを配置し、心の安定に向けての相談・支援体制の充実を図った。</p> <p>○「みやぎ行きたくなる学校づくり」推進事業を町独自の取組として継続実施</p> <p>年間3回のPDCAサイクルによる事業改善を通して、新規不登校児童生徒を生まない学校づくりを行った。また、南三陸町立小・中学校児童会・生徒会代表者会議（G7子どもサミット）を開催し、各校代表の児童生徒が「行きたくなる学校」について話し合いを行い、自分達にできることについて考えを深めた。</p>		
成果	<p>不登校傾向の児童生徒が、教育支援センター「はまゆり」に通所したことで、心にゆとりが生まれ、数名の児童生徒が学校復帰することができた。</p> <p>行きたくなる学校づくりの取組により、新規の不登校児童生徒数は、令和4年度までは減少傾向にあった。</p> <p>いじめについては、些細なことでも積極的に認知し、適切な対応をしている。令和5年度に町内小中学校で「いじめ」として認知した総件数は前年度とほぼ同数であった。</p>		
成果に係る評価	<p>各校において、いじめ・不登校の未然防止に向けた取組として、全教職員による早期発見、早期対応を意識した指導が行われており、ほとんどの事案は解決の方向に進んでいる。</p> <p>令和5年度の不登校児童生徒数は、前年度より増加しており、不登校児童生徒の出現率は小中学校とも全国より高い状況である。不登校問題を解決するために、未然防止のための魅力ある学校づくりと、不登校予備軍の児童生徒を組織で把握し、的確な初期対応を図っていく必要がある。また、児童生徒の社会的自立を目指して、町保健福祉課との連携や訪問指導等のアウトリーチによる支援、不登校児童生徒を抱える保護者への支援も必要である。</p>		

事業番号	3	事業名	コミュニティ・スクール推進事業
教育振興基本計画	基本方針	地域に根差した特色のある学校づくりの推進	
	施策	地域と連携した学校づくりの推進	
目的及び事業内容	<p>学校運営をより良いものとするため、学校評価を充実させ、地域の声を学校運営に生かしていく体制づくりを行うため、学校運営協議会（コミュニティ・スクール）を町内全ての小中学校に導入し、地域とともにある学校づくりを展開する。</p> <p>学校運営協議会の設置及び運営</p>		
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・町内全ての小中学校において年間3回の学校運営協議会を開催した。地域の声を学校運営に生かし、地域と一体となって特色ある学校づくりを進めることができた。 ・地域の人材を活用して、特色ある学習活動を展開した。 ・儀式的行事、運動会、学習発表会など多くの学校行事への地域住民の参加が見られた。 ・交通安全教室、防災訓練など地域と連携して安全・安心な学校の環境づくりを推進した。 		
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・学校運営の基本方針に対して委員から承認を得ることで、学校と協議会が対等な立場に立ち、互いに当事者意識を持つことができた。 ・学校が抱える課題やビジョンを共有し「熟議」を行い、それらに対する評価を協働で行うなど、学校と地域が一体となって、地域の子どもたちの成長に向けた活動を行うことができた。 ・各種行事や防災訓練等への参加を通して、地域と学校がより良い関係を築くことができた。 ・各協議会の活動内容を「コミュニティ・スクール通信」として、地域に発信し、年間の活動をまとめたリーフレットを作成することで、協議会の活動内容や子どもたちの活動状況を地域住民と共有した。 		
成果に係る評価	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者や地域住民等が学校運営に参画し、「育てたい子ども像」、「目指すべき教育のビジョン」を共有し、目標の実現に向け協働することで、より良い学校運営を進めることができた。 ・学校評議員制度とは異なり、双方向の話し合いを通して、学校だけでは気付くことのできなかつた魅力や課題が共有できるなど、学校としてのメリットも大きいと感じた。 ・地域住民や保護者等の学校運営に対する理解が深まり、学校をより良いものにしていこうという当事者意識を高めることができた。 ・学校と地域の様々な機関や団体とのネットワークが構築され、地域全体で子ども達の学びを充実させることができた。 ・今後は、地域住民や保護者等のより主体的な取り組みを促していきたい。 		

事業番号	4	事業名	特別支援教育推進事業
教育振興基本計画	基本方針	特別なニーズに応じたきめ細やかな教育の推進	
	施策	特別支援教育の充実	
目的及び事業内容	<p>教育基本法及び障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律の趣旨を踏まえ、心身等に障害のある特別な支援を必要とする児童生徒に対し、適切な指導と支援を行う体制を継続的に整備することにより、障害のある児童生徒の自立と社会参加を目指す。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 特別支援教育推進委員会 2 特別支援教育コーディネーター連絡協議会 3 教育支援委員会 4 教員補助員の配置 		
取組実績	<ol style="list-style-type: none"> 1 特別支援教育推進委員会 <ul style="list-style-type: none"> ・各校の教育活動について情報交換を行った。 ・町立小中学校、町立保育所・こども園、あさひ幼稚園、入谷ひがし幼児園、気仙沼支援学校、南三陸高校、町保健福祉課を対象に南三陸町特別支援教育教職員研修会を開催した。 演題 「子どもたち一人一人に応じた生き方の指導の在り方～組織力を生かした教育を通して～」 講師 宮城県立気仙沼支援学校 前校長 西城 長一 氏 2 特別支援教育コーディネーター連絡協議会 <ul style="list-style-type: none"> ・町内の特別支援教育コーディネーターを対象に特別な支援を必要とする児童生徒に関する研修会を開催した。 演題 「難聴児の発見と本校ができる支援について」 講師 宮城県立聴覚支援学校小牛田校 地域支援コーディネーター 杉山 亜由美 氏 3 教育支援委員会 <ul style="list-style-type: none"> ・教育支援委員会を2回、専門委員会を2回開催し、特別な支援を必要とする幼児及び児童生徒の教育的措置について答申した。 4 教員補助員の配置 <ul style="list-style-type: none"> ・教員の補助者を19名配置した。 		
成果	<ol style="list-style-type: none"> 1 特別支援教育推進委員会 <ul style="list-style-type: none"> ・各校における特別支援教育の現状や児童生徒の実態について情報を共有する機会となった。 ・特別支援教育を専門とする教員等（特別支援コーディネーター）以外にも合理的配慮やインクルーシブ教育に対する理解を深めることにつながった。 2 特別支援教育コーディネーター連絡協議会 <ul style="list-style-type: none"> ・難聴児を発見する際の留意点や聴覚に障害を持つ児童生徒や児童生徒への合理的な配慮について理解を深めることができた。 3 教育支援委員会 <ul style="list-style-type: none"> ・14名の児童生徒に対する必要な教育的措置についての協議を行い答申した。 4 教員補助員の配置 <ul style="list-style-type: none"> ・教員補助員の配置により、特別な支援を必要とする児童生徒に対してきめ細やかな支援を行うことができる学習環境を整えることができた。また、特に支援が必要な児童生徒に対し、学校生活に支障をきたさないように授業以外の学校生活においても支援することができた。 		

成果に係る 評価	<ul style="list-style-type: none">・特別な支援を必要とする児童生徒の保護者が、地元の学校や通常の学級で他の子ども達と一緒に学ばせたいと思うニーズの高まりや、インクルーシブ教育の推進に伴い、学校側も積極的に受け入れる姿勢を取っており、特別な支援の充実が図られた。また、共に学ぶ環境をつくることで、対象児童生徒本人の社会性の向上を図れるだけでなく、周囲の児童生徒にとっても障害の理解、自己理解・他者理解へつながっている。・特別支援学級の担任や特別支援コーディネーターだけでなく、教職員の理解が深化した。
-------------	---

事業番号	5	事業名	教育環境の整備促進
教育振興基本計画	基本方針	信頼され魅力ある教育環境の充実	
	施策	安全安心で質の高い教育環境の整備促進	
目的及び事業内容	<p>児童生徒の学習・生活の場である学校施設を安全安心なものにするため、学校の老朽化対策や、学校設備の計画的な更新に努める。</p> <p>また、良好で質の高い教育環境を確保するため、学習内容に対応した備品、教材などの整備に努める。</p> <p>1 学校施設・設備の計画的な改修・修繕</p> <p>2 備品、教材などの整備</p>		
取組実績	<p>1 学校施設・設備の計画的な改修・改修整備</p> <ul style="list-style-type: none"> 各学校施設の経年劣化が見受けられることから、緊急性の高いものから順次、施設の修繕等を実施した。 <p>(主な工事等実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> 教育支援センター自動ドア防護柵設置工事 名足小学校屋外埋設給水管布設工事 志津川小学校構内アスファルト舗装修繕工事 入谷小学校地震被害舗装修繕工事 伊里前小学校防火シャッター修繕工事 名足小学校屋内運動場改築工事 志津川中学校防球ネット他撤去工事 <p>*令和5年度は、県内で発生した軽トラ侵入事件を受け、各学校に防護柵を購入するなどの応急的な措置を講じた。</p> <p>2 備品、教材などの整備</p> <ul style="list-style-type: none"> 教材備品については各学校の計画に基づき、必要数量を整備した。 理科教育用備品については、国庫補助を活用し、小学校2校、中学校1校で整備した。 <p>(教材備品整備実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> 戸倉小学校 体育用備品 入谷小学校 モニター、スタンド 伊里前小学校 顕微鏡、マリンバ、体育用備品、特別支援学級用教材 名足小学校 顕微鏡、上皿自動秤、磁石付き大そろばん、体育用備品 志津川中学校 デジタルカメラ付生物顕微鏡、音楽用教材 歌津中学校 直流電流・電圧計、音楽用教材 		
成果	<ul style="list-style-type: none"> 名足小学校屋内運動場が、令和5年10月に供用を開始した。 施設の工事については、計画どおり実施した。 教材備品の購入については、各学校の要望どおり整備した。 		
成果に係る評価	<ul style="list-style-type: none"> 施設の更新、修繕等及び備品等の整備については、全て予定どおり実施し、良好な教育環境を確保することができた。 緊急的に対応が必要となる事案が生じた際にも、迅速に対応し、安全で安心に学ぶことができる環境を確保した。 		

事業番号	6	事業名	生涯学習推進事業										
教育振興基本計画	基本方針	生涯学習推進体制の充実と学習支援											
	施策	生涯学習推進体制の整備充実											
目的及び事業内容	<p>町民一人一人が、ふるさと南三陸の地域資源に関心を持ち、潤いのある豊かな暮らしを送るため、人口減少時代の新しい地域づくりに向けた主体的な学びへの参加のきっかけづくりを推進する。</p> <p>1 文化・スポーツ夢づくり大会 2 生涯学習活動移動支援事業</p>												
取組実績	<p>1 文化・スポーツ夢づくり大会 夢を描き、志を掲げ、未来に向けた主体的な学びへのきっかけづくりを推進することを主たる目的とした「令和5年度南三陸町文化・スポーツ夢づくり大会」を開催し、その席上において、町の学校教育、社会教育、芸術文化、スポーツその他教育の振興に特に寄与した者に対し、南三陸町教育功績者表彰要綱に基づく表彰を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育功績者表彰 褒状10個人3団体及び永年勤続表彰5個人 ・基調講演 演題 「笑いと人生」 講師 落語家 林家 木久扇 <p>2 生涯学習活動移動支援事業 社会教育活動、部活動、校外活動等の生涯学習を推進するため、移動支援事業としてモアイバスを運行した（延べ2, 537人（前年比149%）利用）。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目的別利用件数 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">目的区分</th> <th style="text-align: center;">利用件数（前年比）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>地域活動（移動、視察研修等）</td> <td style="text-align: center;">72件（138%）</td> </tr> <tr> <td>スポーツ、レクリエーション活動</td> <td style="text-align: center;">7件（140%）</td> </tr> <tr> <td>部活動（中学校・高等学校）</td> <td style="text-align: center;">36件（212%）</td> </tr> <tr> <td>校外活動（小中学校・高等学校）</td> <td style="text-align: center;">46件（144%）</td> </tr> </tbody> </table>			目的区分	利用件数（前年比）	地域活動（移動、視察研修等）	72件（138%）	スポーツ、レクリエーション活動	7件（140%）	部活動（中学校・高等学校）	36件（212%）	校外活動（小中学校・高等学校）	46件（144%）
目的区分	利用件数（前年比）												
地域活動（移動、視察研修等）	72件（138%）												
スポーツ、レクリエーション活動	7件（140%）												
部活動（中学校・高等学校）	36件（212%）												
校外活動（小中学校・高等学校）	46件（144%）												
成果	<p>1 文化・スポーツ夢づくり大会 東日本大震災前に実施していた生涯学習推進大会に替わる新しい取組として実施した令和4年度に続き、第2回目として実施することができ、持続可能な事業体制を構築することができた。</p> <p>2 生涯学習活動移動支援事業 モアイバスについては、その認知度・期待度は日常の相談内容からも高まっており、コロナ禍も令和5年度中に感染症法上の位置付けが移行されたことから、利用者数が対前年比で延べ830人ほどの増加となった。</p>												
成果に係る評価	<p>令和5年度の夢づくり大会は、落語家による基調講演としたことから、会場内は大きな笑い声に包まれ、来場者からも高い評価をいただいた。今後は、昨年度の意見聴取において委員から意見があったとおり、町民の興味関心を踏まえた講師の選定を行うなど、この夢づくり大会を一つのきっかけとして、一人でも多くの町民の学習意欲の向上に意を用いていかなければならない。</p> <p>モアイバスについては、全ての活動において前年を上回る利用となった。各学校をはじめ各団体からも高い評価を得ていることから、引き続き、あらゆる機会に、あらゆる場所で、ライフステージに応じた生涯学習活動を支援し、推進していきたい。</p>												

事業番号	7	事業名	協働教育推進事業
教育振興基本計画	基本方針	学校・家庭・地域が協働して子どもを育てる環境づくり	
	施策	地域全体で育む協働の推進	
目的及び事業内容	<p>教育基本法第13条の規定による学校、家庭及び地域住民等の相互の連携を図り、協働して学習活動を行う仕組みづくりを推進する。</p> <p>協働教育推進事業（生涯学習指導者育成事業）</p>		
取組実績	<p>学校、家庭及び地域住民等の相互の連携協力体制を推進するため、地域において高度な技術・才能を有する人材を学校教育活動に活用することにより子どもたちと学び合う中から指導者を育成し、地域学校協働活動による生涯学習社会の実現を図った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・菊の栽培や養蚕の学習、名足小学校では全校による海に親しむ会、各中学校での防災学習（炊き出し訓練）など、全ての小中学校において、生活科や総合的な学習の時間を中心に、地域の人材を講師として体験的な学習に取り組んだ。（生涯学習指導者育成事業（講師謝礼対応分）延べ9団体47個人） ・コミュニティ・スクール（CS）と地域学校協働活動との一体的な推進は欠かすことができず、学校教育と社会教育とが両輪となって取り組んでいく必要がある。令和5年度の全町CS導入により、公民館を核とした地域学校協働活動の体制を整備した（公民館職員がCS委員として参画している）ものの実態が見えない状況にあることから、生涯学習指導者育成事業の見直しを行った。 		
成果	<p>令和5年度においても全ての小中学校で地域の人材を講師として体験的な学習に取り組むことができた。</p> <p>その一方で、昨年度の意見聴取における意見にもあったとおり、学校完結型（公民館と学校のかかわりが無い状況）となっていることについては課題が残った。</p>		
成果に係る評価	<p>教育委員会としては震災以前から協働教育の推進に取り組んできたところであり、学校、家庭、地域住民等の相互が連携した協働教育において、社会教育が果たす役割は大きく、各学校からも一定程度の評価をいただいている。</p> <p>しかしながら、昨年度の評価において、「令和5年度から全ての学校においてCSがスタートし、模索の日々が続くもの思慮される。」としたとおり、学校側も公民館側も取っ掛かりが見出せない状況下であり、体制が整備されたものの実践が伴わない結果となった。</p> <p>CSで出た意見を実践する場が地域学校協働活動であるということを学校側にも公民館にも浸透できるよう、社会教育の側面からも“地域とともにある学校”を目指し、より強固で持続可能な体制・仕組みが構築されるよう取り組んでいきたい。</p>		

事業番号	8	事業名	文化芸術活動推進事業
教育振興基本計画	基本方針	文化芸術活動の推進と文化財・地域文化の継承	
	施策	豊かな情操を培う文化芸術とのふれあいと創造	
目的及び事業内容	<p>豊かな情操を養い、芸術鑑賞能力の向上と地域の文化芸術活動の振興を図るため、町民による自主的な文化を創造する活動を支援し、関連団体の育成を推進する。</p> <p>1 文化芸術活動の推進事業</p> <p>2 町民文化祭の開催（志津川公民館所管）</p>		
取組実績	<p>1 文化芸術活動の推進</p> <p>各世代に応じて、優れた舞台芸術等を鑑賞する・触れる機会を提供した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地方音楽会A（対象：一般） 仙台フィルハーモニー管弦楽団 木管五重奏アンサンブルコンサート 令和5年9月3日（日）に実施し、128人が鑑賞した。 ・青少年劇場小公演（対象：志津川中学校全校生徒） オーボエとヴァイオリン デュオコンサート 令和5年9月29日（金）に実施し、全校生徒及び教職員158人が鑑賞した。 ・巡回小劇場（対象：町立小学校4年生～6年生） 演劇「めっきら もっきら どおんどん」 令和5年10月4日（水）に実施し、町立小学校4年生以上の児童及び教職員等210人が鑑賞した。 ・宮城県美術館「学校アウトリーチ」事業（対象：戸倉小学校） 令和5年12月12日（火）に実施し、低学年、中学年及び高学年ごとにテーマを設定し、全校児童が体験した。 <p>2 町民文化祭（展示部門）の開催（志津川公民館所管）</p> <p>町民による自主的な文化を創造する活動を支援し、発表する機会を提供するため、令和5年11月8日（水）から同月16日（木）までの期間、7団体5個人の235点の作品を展示し、300人が鑑賞した。</p>		
成果	<p>令和5年度は、コロナ5類移行により制限なく、各世代に優れた舞台芸術等を鑑賞する・触れる機会を提供することができた。</p> <p>なお、昨年度の意見聴取において、「アウトリーチ事業等も積極的に学校で活用されるように調整を」といった意見があったとおり、戸倉小学校において実施することができた。</p> <p>また、町民文化祭についても、書道、絵画、パッチワーク等たくさんの作品を展示することができた。</p>		
成果に係る評価	<p>見て・聞いて・感じるといった直接触れる機会は豊かな情操を養う上でも重要であることから、今後においても継続して芸術鑑賞の機会を提供できるよう計画していきたい。</p>		

事業番号	9	事業名	スポーツ活動の機会の充実
教育振興基本計画	基本方針	生涯スポーツの推進	
	施策	健康増進のためのスポーツの推進	
目的及び事業内容	<p>町民だれもが、どこでも、いつでも、いつまでも、スポーツに親しみながら健康・体力を保持・増進することによって、潤いと活力のある生活を実現することを目指し、スポーツやレクリエーション活動への積極的な参画を促すとともに、その環境整備を推進する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 学校施設の開放 2 町民プールの開放 3 スポーツに触れる機会の提供等 		
取組実績	<ol style="list-style-type: none"> 1 学校施設の開放 平日の夜間、土曜日及び休日に学校施設（体育館、校庭及び柔剣道場に限る。）を開放し、延べ20,415人が利用した。 2 町民プールの開放 令和5年7月22日（土）から同年8月19日（土）まで（お盆期間を除く。）の26日間開設し、延べ517人が利用した。 3 スポーツに触れる機会の提供等 <ul style="list-style-type: none"> ・令和5年7月23日（日）に平成の森しおかぜ球場において、2023プロ野球イースタン・リーグ公式戦「楽天vsロッテ」を開催し、プロスポーツに触れる機会を提供した。 ・令和5年9月1日（金）に、本町総合体育館に「仙台89ERSベイサイドアリーナ」の看板が設置され、同日から3日（日）までの間、トレーニングキャンプが開催され、選手とスポーツ少年団の子どもたちが交流した。 ・令和6年3月10日（日）に、ベガルタ仙台「宮城・東北ドリームプロジェクト」としてホームゲームに特別招待され、スポーツ少年団の子どもたちが観戦する等した。 ・各公民館では、家庭バレーボール大会やグランド・ゴルフ大会、歌津地区交流野球大会など、地区ごとのスポーツ大会の一部を再開することができた。 ・スポーツ交流村では、指定管理者が主体となり、キッズ体育スクールや成人向け健康教室の開催、トレーニング室利用者向けの健康相談や健康コラムによる情報発信を実施するなど、町民が気軽に利用できるスポーツ・健康づくりの場として積極的に取り組んだ。 		
成果	<p>コロナ5類移行により、多くの活動が再開された中において、学校施設や町民プールを開放できたこと、総合体育館に「仙台89ERS」の看板が設置されたこと、及び「プロ野球イースタン・リーグ公式戦」が計画どおり開催できたことにより、多くの町民にスポーツに対する機運の醸成が図られた。</p> <p>スポーツ交流村は、インストラクターを配置する町内一の屋内運動施設であることから、その特性を生かし、指定管理者と連携しながら、町民の心と体の健康づくりの場として環境整備を推進することができた。</p>		
成果に係る評価	<p>宮城県を拠点とするプロスポーツ団体（ベガルタ仙台、楽天野球団及び仙台89ERS）との連携が強化されていることは、高く評価できる。施設規模等から公式戦の開催には限りがあるものの、ホームゲームへの町民無料招待等も行われ、町民が身近に、本物のスポーツに触れる機会がつけられていることから、今後においても、プロスポーツ団体や指定管理者と連携した取組を推進していきたい。</p> <p>加えて、生涯スポーツ活動の推進は、町民の心と体の健康づくりや余暇活動の充実、さらには、町民相互の交流促進にもつながり、コミュニティの形成に大きな役割を果たすものであることから、コロナ禍前に実施していた公民館ごとのスポーツ大会を“各地区で”再開できるよう取り組んでいきたい。</p>		

学識経験者からの意見

事業番号及び事業名	意見	見
1 学力向上推進事業	<p style="text-align: center;">及川道子氏</p> <p>・南三陸スタイルでの授業の進め方が、それぞれの教員がかなり意識して進めているところだと感じていました。それがずっと継続されていて、浸透されてきて、小中の子供たちの授業に向かう上での抵抗のなさというか、中学校に行くところでもハードルが高くなるというように繋がっているという抵抗なく授業に向えるということに繋がっているという説明を聞いて、やはり素晴らしい取り組みだと感じております。</p> <p>・学校では、毎年教員が代わりますので、他地域から来た時に4月からすぐに他地域から来た先生たちが、南三陸スタイルを自分のものにして、それまでの自分の授業スタイルから南三陸スタイルを取り入れながらやることの難しさとか、それを早く校内で浸透させるための校内の研修の機会でありますとか、先生たちの共通理解などが上手くいっているから、成果として出ているのかなと思いますので、これを継続できればと思います。</p> <p>・授業創造の3項目、これからまとめられるということですので、より検証されてということを思いました。ただ、やはり、主体的、対話的で深い学びとイコール学力テストでの成績、点数にはならないことは、もう重々、皆さんご承知だと思っておりますけれども、やがては、点数にも結びつく学力、本</p>	<p style="text-align: center;">西條榮福氏</p> <p>・今の説明を聞いて、また、この資料を見て、随分と一生懸命やっつてると感じました。</p> <p>・本来に先生、それから教育委員会が一体となって取り組んできたのかなと感じております。</p> <p>・実は私も感じていたのは、先生方は異動しますので、そうした中で、同じレベルで継続していくとなると、大河原の視察、この3年計画というものは、果たして、3年でもいいのかなと感じています。できれば、次の先進地を考えておいて、全体的な取り組みとして、緊張感を常に持ってた方がいいのかなと思います。</p> <p>・評価といたしましたしては、本当にきめ細かくやっているなという風を感じたところでは、</p>

	<p>当の学力になるように、根気強く、子供たちが本当に内から学びたいという姿勢に、高い意識になるような、授業の中での実践、授業以外のところの日々の生徒と子供たちと先生たちとの関わり合い、授業以外の関わり合いも学びの中では、かなり重要なかなと感じておりますので、これからのことに期待していきたいと思えます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・はゆりの取り組みが素晴らしいというか、スーパーバイザーの先生方、それから、いろんな機関との連携をして、支援に当たっているところが成果に結びついているのかなと思います。 ・地域の保護者にとって、話しやすいところ、相談しやすいところがあるというのは、まず何より一番いいなと思います。 ・以前はどうしても学校の中だけで解決しようという傾向がありました。ところが、やはり今、いじめにしろ、不登校にしろ、家庭環境も多種多様になってますので、やっぱり学校だけで抱え切れない部分もありますし、専門家の意見、特に保健福祉課の方は、家庭にすぐ子供が小さい時から継続して関わっていて、本当に保健師さんたちの意見が参考になることも大いにありますので、いろんなところと協力して連携して取り組んでいるっていうところもまた素晴らしいなと思えました。 ・学級担任一人だけ、例えば朝、昼、帰りの会など、一人ではなく、でき得る限り複数の大人が授業以外のところにも複数の目で見守ることで、一人の感じ方と複数の人の感じ方、
2 積極的な生徒指導の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・富城県の不登校は、県全体でかなり高い位置にあるということ、新聞報道などで聞いているんですけども、はまゆりの活動、これが、いい方向に行っているのかなと思っています。 ・やはりこのいじめとか不登校、これはもう、どこでも起こり得る状況であって、だから、相談される立場を活用して、その人たちをいかに復帰させるかということをやったこと、そのまま継続してやっていただければと思います。 ・また、復帰した子供たちを学校で心よく受け入れて、そして盛り上げていくようなスタイルを確立していただければ継続性が出てくるのかなと思いますので、しつかり連携を取ってやっていただければと思います。

	<p>見方ということで、発見が早くなる。そして、それを言葉にして、気づいたことを喋れるような、学校の中の雰囲気、連携が、未然に防ぐことに繋がるのかなど。そういう取り組みがなおできるというかなと思います。</p>	
<p>3 コミュニティ・スクール 推進事業</p>	<p>・地域の方にも中高全部の学校通信が回覧されたり、配布されたり、その中で、コミュニティ・スクールの中身、学校活動の様子など、毎月配布物によって知ることができるので、以前よりも地域住民として学校の様子がよくわかるようになったと思います。</p> <p>・色々な学校での活動も、地域に協力を、例えば、草刈などを要請するようなど、場所も増えてきましたし、学校の方が地域を活かしてという風なところを意識して活動されているというの、より伝わってくるなど感じます。</p> <p>・ただ、本来に少子化で近所の子供たちも少なくなってきたし、震災以降、コミュニティが動いたことで、どこに、どこ誰が、小学生がいるとか中学生がいるとか、その地域にもよると思うんですけども、地域の大人たちもわかりにくい。学校に直接関わった活動をしていないと尚更のこと。子供たちの声、遊ぶ声も聞かなくなったりというように、以前よりちょっと子供たちが地域で活動してる様子が見えなくなってきたというの、ここ1、2年感じるところではあります。もう少し学校という子供たち、以前のように関わりができていいなというのは、日常的にちよっと感じていたところではあります。</p>	<p>・この地域に根差した事業、これは、南三陸町は随分歴史があって、相当な実績も上げてきて、このふるさと教育、そういった流れの中で、子供たちには有意義な事業ですけれども、やはりこの少子化の傾向がだんだん進むにつれて、難しいことも色々出てきたのかなと思います。</p> <p>・そういった中、なかなか子供たちの姿が見えないというところで、例えば、こういった事業でも、ある程度子供たちと受け入れる側、それが、コミュニティ・スクールとか学校からの配信によって全体に見えるようになってきたということで、この事業に対して私は、もともとと積極的に進めていっていただければ、自然とその協働体制が整うのかなと思います。</p> <p>・少子化で本来に難しい局面に立ってると思うんですけども、こういったコミュニティ・スクール等を通して、もともとと住民との距離を縮めるようにやっていたらいいかなと思います。</p>

4 特別支援教育推進事業

・教員補助はすごくありがたい存在ですよね。教員補助の方々がいてくださることでの安心感ありますし。中学校だと、どうしても休み時間とか大人の目が不在時間帯というのが出てきますので、そういう時でも必ず教員補助の方が教室若しくは廊下の方でいることで気づいていただいたり、それこそ、その担当する子供だけでなく他の子供についても気になることを教えてくださったりとか、本当に貴重な方々だなと思いますので、教員補助の方々も校内で特別支援コーディネーターを中心に先生方と情報共有できるようになっているといいなと思いました。

・町内共通の児童生徒のチェックシート、いろんな特性を発見するためのものがあるって、大体夏休み前に先生方で共通理解するようない生徒指導理解研修会のようなものを設けてたんですが、そういうのは各校共通で、今でもそのチェックリストを使ってやられていると思われませんが、それは、別に病名をつけるものではなく、先生方が共通して気になるところを共通理解するためのもので、やはり学力向上とか授業の面でも有効ですし、生徒理解の面ですごく有効だったっていう経験があるんですね。例えば、この子は耳からの情報だとなかなか聞き取れないけれども、目からの情報は有効みたいだぞとか。いろんなところで活用できたなということがあるのですね。ちよっと手間だし時間はかかるんですけど、このチェックリスト、かなりの項目に渡りますので、それをコーディネーターの方が実践して、先生方全部での共通理解をする研修会というののはかなり有効だったなっていうことを感じてお

・私も以前、学校に関わった時にやはりこの教員補助の方々の苦勞っていうのを見て分かっていてるんです。一時期、教員補助が集まらない時があった。そういうことの中で、昨年は確か20名で今年は19名ということの中で、安定してこの補助体制が整っているのかなと思うわけで、ぜひ、このような体制が継続できるように、普段から教員補助に対して、目配り、気配りをしていただければと思います。

・教員補助に対する研修とか、教員補助に取り組む姿勢とか、そういうったものを浸透させたいだければ、この特別支援に繋がるのかなと思います。

・ぜひとも、教育委員会として、サポートして問題解決に向けて、努力していただければと思います。

	<p>りますので、それを教員補助員の方も含めて共通理解すること、常日頃の子供たちへの有効な支援につながるということ、続けていただきたいなと思うところです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本場に南三陸町は施設、設備、備品等が充実しているという点で、他町村から来た先生方も話されています。きめ細かにやっていた点がありありがとうございます。 ・学校は、大抵の学校がどこからでも入れるようになっていながら、常日頃は危ないことがありますので、いかに外部からの侵入を、車でもそうですし、校舎も生徒が登校した後、全部施錠することは、今どこの学校でもやっていると申し上げますけれども、子供たちがとにかく安全に、怪我なく、事故なく過ごせるようこれからもよろしくお願いしたいと思えます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子供たちの教育環境を整えるという最も重要な部分であるわけでありまして、今年度もこれだけやったのかと。今この成果、評価が聞けて、最もその通りだなと思って関心をしています。 ・毎年毎年こうしてやっていかねばならないものだから、やっぱりここは、計画的にしっかりと子供たちのために、より良い環境を整えてやるというその意思のもとに、今後も、継続してやっていただければと思います。
<p>5 教育環境の整備促進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・モアイバス、非常に利用が多くて、なかなか間に合っていないのかなと。すごく活発に利用されていることは聞こえてきて、学校だけでなく一般の方もかなり活用されて、「モアイバスとってもいいもんだって」と聞いております。その分ご苦勞もあるかもしれませんが。 	<ul style="list-style-type: none"> ・これは、いわゆる学校から一般まで皆利用できるということ、随分伸びが多いので、それだけ認知度も増したし、この事業の、生涯学習活動支援事業の周知が図られたのかなということで、本場にご苦勞様になります。 ・成果が830人ほどの増加ということで、本場に、素晴らしい成果を上げられたことに敬意と感謝申し上げます。 ・評価においても、やはり生涯学習でありますから、町内全般を見据えて、活動していただければと思うわけでありまして、大震災後、コミュニティづくりが、また新たな形になってるんで、そういったところ
<p>6 生涯学習推進事業</p>		

	<p>ろで苦勞も多いと思いますけれども、どうか、きめ細かな生涯活動、生涯教育を推進していただければと思います。</p>	<p>・公民館と地域、そして学校との連携ということで、実は、令和4年度、「回復に努めてほしい」と苦言を呈したと記憶しております。昨年は、かなりそれが反映されたこと、意見したと覚えています。そして、今年がこれです。まず、本当に努力の跡が見えてると思います。</p> <p>・学校と公民館、そして公民館を軸とした地域、大震災などでこのコミュニティがガラリと変わって、1軒1軒の角と角が遠くなって、見えにくい部分がいっぱいある。そういった中、地域と学校が公民館を核として、結びつけて、そして協働体制を取っていく。大変な苦勞だと思います。そういった中で、頑張ってる姿を見せられて、本当にありがたいと思います。このまま継続して、ぜひ、地域のために頑張っていただければと思います。</p>
<p>7 協働教育推進事業</p>	<p>・震災前は私も担当したことあるんですけど、かなり公民館が心強い存在でした。地域の方との本当の繋がりが、公民館に相談することで行く方々を紹介いただく、地域と学校が密接に活動していく拠り所だったと思うんですね。それだけ身近な存在で、学校にも頻繁に来ていただきました。</p> <p>・やはり震災で、それが難しくなったということなんだと思うんですが、学校の方のニーズというのも、色々教育活動も変わってきているところもあると思います。学校の方も毎年のように代わる場所もありませんので、人が代わっても継続していただける、地域として継続していただける、学校と公民館が結びついていけるような取り組みを今後ともぜひお願いしたいと思います。</p>	<p>・毎年このように文化芸術ということで、繰り返し繰り返して、ご苦勞もあると思うんですけども、本来にありがたいと思います。なかなか我々は、文化という面については、わからないものが多いから、こういったことを通じて吸収していくというか、そういう姿勢が大切だと思うんです。引き続き、これをやってほしいと思います。</p> <p>・特にコロナが5類に移行してからは、町民もそうい</p>
<p>8 文化芸術活動推進事業</p>	<p>・地域的になかなか本物の文化芸術に触れる機会が少ない子供たちですので、これからも継続してほしいと思います。</p> <p>・震災を機にいろいろんな音楽家の方とか、この町に実はいっぱい関わりができて、でも13年経って細くはなってきましたけど、本当に震災直後から5、6年ぐらいまで、考えられないような素晴らしい人たちがやってくれました。そのチャンスという機会を生かせないかと思わずと繋がると、震災で得たんですけれどもね。そういう人たちと繋がると、震災で得た</p>	<p>・地域的になかなか本物の文化芸術に触れる機会が少ない子供たちですので、これからも継続してほしいと思います。</p> <p>・震災を機にいろいろんな音楽家の方とか、この町に実はいっぱい関わりができて、でも13年経って細くはなってきましたけど、本当に震災直後から5、6年ぐらいまで、考えられないような素晴らしい人たちがやってくれました。そのチャンスという機会を生かせないかと思わずと繋がると、震災で得た</p>

	<p>縁というか、生かしていけるといいのかなというのを思いま した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・とにかく、本物に触れる機会を子供たちにたくさん。音楽、 美術、いろんな芸術をよろしく願っています。 	<p>ったものに参加できるようになってると思うんで、 よく周知徹底して、町民を良い方向に結び付けていく ように努力していただければいいと思います。</p>
<p>9 スポーツ活動の機会の 充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・プロスポーツに触れる機会っていうのは、なんと3つもある っていうのが、この町の規模ですごいなと。子供たち、本 物に触れる機会が増えることで、憧れであるとか、いい刺激 になると思いますが、ますます活発にやれるといいなと思 います。 ・一般の人たちも、いろんなスポーツの「何々教室に行っ てよ」という声も、近所でも結構聞きますので、そういう体 を動かすことについて、周りの意識も高くなってきているなど 思いますが、やりたいないう時に、あるということがい いことだなと思ってます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・プロスポーツ3団体、本当に我が町ならではの、素 晴らしい実績を挙げていますし、プロの人たちはどう いう動きをするのかと、間近で見ただけでも全然違う と思うね。本当に素晴らしい事業だと思えます。 ・各公民館での家庭ボール大会、震災前にまだまだ戻 ってはいないんだろけれども、やっぱりこれを充実さ せていくことで、かなりコミュニケーションが変わっ てくると思うんだよね。ここからだと思うんだよね。 この地域を熱くするというか。いわゆる協働体制。そ ういった意味においては、公民館のこの事業を推進し ていく活動というのはいは大きいと思う。ぜひ、頑張っ て進めていただければと思います。この点、お願いした いと思います。よろしく願います。
<p>総括</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・全体を通して、昨年度も感じたんですけれども、どの 事業も非常に前向きに、積極的に、一つ一つ丁寧に取り組ま れていることにありがたいなという思いと共に、ぜひこれを 継続していただきたいなと思います。 ・昨年、ここでお話ししたことについても、すぐに動いていた だけで大変ありがたいと思っております。 ・地域の子供たちのためにも、それから老人がかなり増えて まいましたけれども、地域のコミュニティのためにも、今 	<ul style="list-style-type: none"> ・令和5年度は、大震災からの復興も完遂が見えたの かなと、さらに、コロナも落ち着いてきたのかなとい うことで、この教育委員会部局も、新たな局面を迎え た年だったのかなと思っております。そういった中で、1 評価いたしましたし、まず子供たちに対しては、1 番は、安全、安心、そして学力向上対策、さらには全 体的に見た生涯学習の推進など、バランスの取れた事 業が行われたのかなと評価させていただきたいと思

	<p>後ともよろしく願いたいと思います。</p>	<p>います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特に、今後なんですけども、いわゆる少子化は避けられない、少子化傾向に向かっていくわけなんですけど、そういった中で、この学校運営、大変難しいものがあると思います。そこで、教育委員会、公民館、地域が連携して、この協働体制を整えて学校を盛り上げていく、そういうことに意を用いて皆様方には頑張っただけだとは思いますが、どうぞよろしく願いたいと思います。
--	--------------------------	---